

こんにちは。蒲生 一拓です。

私は 2017 年 1 月からアフリカのザンビアという国に派遣されています。早いもので 2 年の任期の内 1 年が過ぎました。任地のムピカは、首都のルサカから約 640km 離れた所にあります。私はここにあるムピカ男子中等学校という全寮制の男子校で、コンピュータースタディという教科を生徒達に教えています。

■活動について

学校のパソコン環境は日本のように恵まれているわけではなく、1 クラス約 30~40 人の生徒に対し、パソコンは 15 台ほどしかありません。その為、実際にパソコンを使った授業をする際には 2~3 人でシェアをするか、生徒の半分に教室で自習をさせ、残り半分の生徒に対し PC 教室で指導するという方法をとっています。また、パソコンも古かったり、十分なメンテナンスも受けていない為、使用中に突然電源が切れたり、モニターが変色したり、ウィルスに感染していたり、はたまた停電によって使えなくなったり…と、なかなか満足に扱うことができません。日本との環境の違いをひしひしと感じています。パソコンのメンテナンスやリペアを行って環境整備を行ったり、停電時のアクティビティを考えたりと日々工夫しながら活動しています。

■ザンビアについて

人口 1659 万人(2016 年)、国土 752614km²。日本の約 2 倍の国土に、日本の約 10 分 1 の人々が暮らしています。ザンビアは非常に治安が良く、アフリカでもっとも平和な国の一つとして評価されているようで、人々も友好的です。73 の部族が存在していたこともあり、ザンビアの公用語は英語なのですが、多数の現地語があります。首都にはショッピングモールが複数あり、日本と変わらないくらい都会です。中国やインド系の人々が多く進出しており、インド・中国料理店や、中華食材マーケットもあります。

観光はリビングストーンという街には世界遺産になっているビクトリアフォールズがあり、日本からの観光客もいます。ザンビア東部にはサウスルアングア国立公園もあり、広大なサファリで野生の動物を見ることができます。

交通機関はバスやタクシー、飛行機がありますが、日本にないものとして、シェアタクシーやミニバスがあります。また、バスはよく整備不良で動かなくなり路上で立ち往生することもあります。タクシーは、日本では到底走れないような車(窓が割れていたり、ドアが開かなかったり)を利用しています。面白い

のが、タクシーに乗る前にどこに行くか、いくらで行ってくれるかドライバーと話し合い、値段に納得できなければドライバーと交渉することができます。シェアタクシーやミニバスは安価で済みますが、満席になるまで発車しないので、1~2時間待つこともあります。

■食事について

ザンビアの主食はシマと呼ばれるトウモロコシを粉状にして練ったものです。安価で腹持ちが良いのが特徴です。近所のレストランでは、シマと野菜、T ボーンステーキのセットで 20 クワチャ(日本円で約 200 円)と非常にお手頃です。シマだけではなく、パンやお米、パスタ等の乾麺も手に入れることができます。

■任地について

私の任地ムピカは、首都ルサカからバスで北へ 10 時間移動したところに位置しています。首都から離れてはいますが、食材や生活用品等の必要なものは一通り揃えることはできる為、不便を感じることはありません。

人口は約 4 万人(2010 年)、ここではベンバ語という現地語が使われています。人々は英語も話せますが、ほぼ現地の人々の会話はベンバ語です。(中には英語が全く話せない方もいます)その為、私がベンバ語を話すすと非常に驚かれますし、喜ばれます。私達も外国の方が宮崎弁を話すと嬉しいですね。現地語を通じて、配属先の同僚や生徒、近所の人々やマーケットの人々とコミュニケーションをとることで日を追うごとに仲良くなっています。ザンビアには中国が進出している為、私は最初中国人と思われていましたが、今では日本を知ってくれて、逆に日本語の挨拶を覚えてくれたりと、嬉しいことも多いです。また、任地の外れにはザンビアではここだけ?の珍しい温泉があります。

■生活について

アフリカの生活というと、何が思い浮かびますか?

一番日本との違いを感じるのが、生活面です。私が住んでいる家は電気は通っていますが、水道がありません。水道は家の近くに共同の水道があるので、そこまで行きバケツに水を汲み、家にあるタンクに貯めています。なかなかの労働です。その水道も常に出る訳ではありません。また、家の中に風呂場とトイレはなく、離れにあります。風呂場とは名ばかりで、シャワーも湯舟も蛇口もありませんので、水を汲んだバケツを持っていき体を洗っています。トイレは一応水洗ですがフラッシュバルブがないので、風呂と同様に都度バケツに水を汲んで流す方式です。家電は冷蔵庫はありますが洗濯機がない為、毎回手洗いです。赴任した当初は不便さを感じる事だらけでしたが、今ではすっかりこの生活に慣れ、楽しんでます。水汲みでは近所の人と協力したり、会話するいい機会です。お風呂はバケツ一杯の水で全身洗えることが分かり、トイレは流すのにこんなに水が必要であることに驚き、洗濯は洗濯機の便利さを身をもって知ります。いかに日本での生活が恵まれていたかひしひし感じます。日本を離れなければ分からなかったことばかりで、非常にいい経験をさせてもらっています。

何もかもが日本と違うこの地に国際協力をする為に来ましたが、実際私は隣人や配属先の同僚、任地に住む人々、多くの人に助けってもらうことばかりです。これからの一年、恩返しの意も込めて、より活動に注力し現地の人々の役に立ち、私がここにいたことを何か残して帰れるよう取り組んでいきます。